

令和5年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(大館市)

1 市の概要(人口 67,550 人)※令和5年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和5年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1 園	0 園	8 園	1 0 か所	0 園	0 園	1 7 校

その他:へき地保育所6 地域型保育2 事業所内4 認可外0

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
(1) 教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。 (2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。 (3) 小学校との情報共有と合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)
将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。
主な内容(3年間)
(1) 教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター機能の運用 ・教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会を共同開催 (2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導 ・教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置 ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導体制 (3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成 ・主任、ミドルリーダーの研究推進 (4) 基幹保育園の公開保育による研究成果の発信 ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進 ・基幹保育園以外の園、近隣市町村への研究成果の発信、研修機会の提供 (5) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実 ・市主催による合同研修会、相互の研究会への参加の促進 (6) 接続期カリキュラム作成に向けた調査研究 ・幼保小の架け橋プログラム研究事業によるカリキュラム共同研究・開発 ・幼保小合同授業・保育、交流の参観、及び研究協議への参加 (7) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化、市町村とのネットワークの構築 ・県就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加 ・最新情報を得ながら、県からの助言をもとにした体制や研究内容の見直し
年度別重点
令和4年度 架け橋充実期のカリキュラム(素案)に向けて、0歳から5歳児までの保育・教育の成

	果と課題を整理する。 就学前施設・小学校の教職員相互の研究会や合同研修会への参加を促進する。
令和5年度	幼保小の架け橋期の保育・教育の改善を図る。幼保小の架け橋期のカリキュラム（市共通版）の見直しと各小学校区における架け橋期のカリキュラム完成。各小学校区の各園と各校の交流や職員間の共通理解を図る。
令和6年度	幼保小の架け橋期、並びに架け橋期につながる0歳からの保育・教育の充実を図る。架け橋期のカリキュラムをもとにした各園・各校の保育・教育の実践、検証により、教育・保育の質の向上を図る。全小学校区における架け橋期のカリキュラム完成。

わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業 事業の概要(大館市)

4 令和5年度の実施

目 的	
○ふるさとキャリア教育の理念の下、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期＝架け橋期として、それに関わる保育者・教職員が教育・保育の指導や援助等について共通理解を図り、一層連携を推進する。	
実施内容及び実施状況(中間)	
(1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実 ○教育委員会と子ども課の連携による幼児教育センター的機能の強化 ① 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導 ・子ども課の保育アドバイザー、教育研究所教育・保育アドバイザーの定期的な打ち合わせの実施、訪問、連携事業の推進 ・各園の要望に応じた訪問、研修への支援 ・基幹保育園園長会、所長会への参加、情報提供、助言(月1回) ・基幹保育園主任会との連携による研究推進への助言(月1回) ・小学校授業研究会への参加 ② 共同開催事業の実施 ・昨年度から就学前から中学校までの「個別的教育支援計画」の様式の統一、データ化を図り、支援に係る情報を確実にデータで引き継ぐ取組を開始した。 ・幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」(9～3月)～入学前の集団生活での生活や学習に不安をかかえている年長児を対象に、少人数集団で通級指導を実施。指導スタッフとして、子ども課と教育委員会が支援に当たっている。 ・満5歳すてっぷ相談(年間12回)～就学を見通し集団への不適應、人との関わりが苦手な子どもの早期発見、就学に向けた「生活習慣づくり」の保護者講話・相談を実施。子育て講話「安心して小学校入学を迎えるために」を教育委員会が担当。 ・子ども課と小学校との連携による就学時健診の実施。子どもについての事前情報の共有、その後の保護者面談を連携して実施している。保護者に対しては、県が作成したリーフレットを活用して、架け橋期の育ちと学びのつながり、子育てへの理解を図っている。 ○「育ちの教室ぐんぐん」、「満5歳すてっぷ相談」、就学時健診、諸検査、各種相談歴を連動させ、就学情報支援ファイルを作成することにより、早期支援のための在籍園・小学校への情報提供、関係機関との情報共有、保護者への継続的なサポートを可能にしている。 ○教育委員会主催の研修会への保育士等の参加者が増えており、幼保小の育ちや学びについての関心が高まっている。 ③ 研修会の実施 ＜市主催研修会＞	

- ・4歳児担任研修会（5/26, 6/16, 7/7, 7/28, 8/25, 9/22）
- ・幼保小連携推進会議（5/17）
- ・幼保小担任研修会（6/1）
- ・年齢別研修会（6回）
0歳児（7/31） 1歳児（8/30） 2歳児（10/3）
3歳児（9/7） 4歳児（9/27） 5歳児（7/21）
- ・ファシリテーター研修会Ⅰ（7/14）
- ・大館市教職員夏季研修会（8/2）
- ・実技研修会（8/29）
- ・5歳児担任研修会（11/16）
- ・ファシリテーター研修会Ⅱ（12/7）
- ・教職員研究実践発表会（1/9）
- ・子どもの虐待防止研修会（1/24 実施予定）

＊成果と課題については、
（３）「専門性の向上のための研修の充実」①市主催研修会の開催
の項目において記述。

（２）「教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導

- ・私立の認定こども園への協力要請

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導の実施状況（大館市）

派遣実績 計40施設／全48施設 247回	
回	・幼稚園：私立1園（9回） ・保育園：公立9園（69回）、私立1園（7回）
数	・幼保連携型認定こども園：私立8園（57回） ・その他の施設：（へき地保育所7園（35回）児童館0か所、小規模保育施設2か所（18回）、 認可外保育施設0か所、事業所内保育施設4か所（33回）） ・小学校：17校（19回）
訪	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、16園（25回））
問	・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、9園（18回））
内	・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、4園（9回））
容	・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、6園（15回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、32園（141回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、19園（20回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、8校（19回））
理	基幹保育園である公立保育園への年間を通じた継続的な支援により、市が目指す保育の方向性を具現化するとともに、園内研修のモデルとして他園にも広げていく役割を果たす。私立園やへき地保育所には、継続的に幼保小連携便りを配布しながら研修や訪問のメリットを具体的に周知するための訪問を増やしていく。子ども理解と接続等における教職員の相互理解のために幼保小との連携を図る。

- 子どもの育ち・読み取りの共有方法、研究協議の進め方等への継続的な助言により、研究に深まりが見られる。協議方法では、独自の観点を取り入れている施設もあり特色が出てきている。
- 訪問による指導・助言を生かして保育の質の向上につながっているところとそうでないところの差があるため、訪問後の状況確認と、園長や研究担当者との支援に取り組みたい。

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

① 市主催研修会の開催

□4歳児担任研修会（5/26, 6/16, 7/7, 7/28, 8/25, 9/22）4歳児担任等対象 27名参加
内容「満5歳すてっぷ相談」における保護者への講話と絵本の読み聞かせの参観
講師（講話） 大館市教育研究所 副主幹 山本多鶴子氏

(読み聞かせ) 公立保育園主任

<アンケートより>

- ・保護者と一緒に講話を聴くことで、今後、共通の認識をもって連携していくことができると思いました。
- ・普段から「10の姿」で保育を行っているが、保護者と連携を取る上で、保護者も「10の姿」について知識をもっといただくことが大事であり、今日の講話は、「10の姿」をコップに例えて保護者の方にも分かりやすく伝えていて、ありがたく思いました。

○担任と保護者が一緒に講話を聴く形は、入学を迎える子どもへの関わり、子どもの育ちについての理解など保護者との連携を図る上で有効であった。

◇この形は次年度も続けていきたい。

□年齢別研修会

- ・5歳児研修会(7/21) 5歳児担当者対象 20名参加

内容 5歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・5歳児の担任同士、悩みをじっくりと話し合うことができ、保育を進める勇気やヒントをもらうことができました。事前に、話し合いたいことを出し合いそれに目を通すことができたのも、考える時間があってよかったです。
- ・悩んでいたことをグループの先生たちに聞いてもらいたくさんのアイデアをもらうことができ、これからの保育に生かしたいと思いました。
- ・自分も玩具を作り保育に生かしていきたいと思いました。

- ・0歳児研修会(7/31) 0歳児担当者対象 23名参加

内容 0歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・改めて、0歳児の保育で大切なことについて確認することができ、自分は何を大切にして保育していたか、自分自身の保育の仕方について考えることができました。
- ・グループの話し合いが盛り上がりもう少し時間があってもよいと感じました。また、手作り玩具も作り方や遊び方を詳しく聞いて回る時間がもう少し欲しいと感じました。

- ・1歳児研修会(8/30) 1歳児担当者対象 13名参加

内容 1歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

<アンケートより>

- ・自分の日々の保育を振り返った時に、子どもに手をかけすぎたり、子どもの気持ちを先取りしたりしていないか考えさせられたので、子どもの「やりたい」という気持ちを汲み取った保育をしていくように心掛けたいです。
- ・子どもの「心揺さぶられる体験」を大切に、一緒に感動しながら日々の保育をしていくようにしたいと思いました。

- ・3歳児研修会(9/7) 3歳児担当者対象 19名参加

内容 3歳児の教育・保育で大切にしたいこと

参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介

講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏

＜アンケートより＞

- ・グループ協議を受けて、子どものケガや安全面にだけ気を取られてしまい、自分で遊びを見付けることや気付くことへの手立てが不足していたと気付くことができました。
 - ・歯磨き一つでも園によって違いがあり、話を聞くことで参考になった。情報を共有することで、自分の保育を振り返ったり、他園の考え、悩みを共有したりすることができました。
- ・4歳児研修会（9/27） 4歳児担当者対象 21名参加
内容 4歳児の教育・保育で大切にしたいこと
参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介
講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏
＜アンケートより＞
- ・たくさんの先生方からの意見や各園のおもちゃの工夫やアイディアを得ることができ、自分自身の保育に取り入れられる良い機会になりました。
 - ・講話を聞いて、子どもと一緒に遊ぶ中で、目的をもったの行動や社会性の育ち、協同的遊びへのつながりなど、次につながる発達を意識しながら保育をしていこうと思いました。
- ・2歳児研修会（10/3） 2歳児担当者対象 25名参加
内容 2歳児の教育・保育で大切にしたいこと
参加者同士の情報交換・手作りおもちゃの紹介
講師 大館市福祉部子ども課 保育アドバイザー 鎌田 晴美氏
＜アンケートより＞
- ・保育経験が長くなり「だいたい2歳児はこんな感じで保育していけばいいだろう」と漠然と保育していたところが、今回の研修で教育・保育の基本を再確認することができ、大変よい機会となりました。
 - ・年齢が下の保育者にアドバイスしたことは（これまでそのような機会があまりなかったので）、自分自身の振り返りにも繋がって良かったです。

○担当年齢の保育に大切なことを再認識し、自分の保育を振り返るきっかけとなった。

○保育の悩みや迷いを話し合う機会がもてたこと、保育に生かせる・参考になる実践やアドバイスをもらえた等々の声が多く、保育士等同士で聞き合い学び合うよい機会になった。

○担当年齢ごとに実施したことは、他園の取り組みを知り自身の保育に生かすことができ、保育の質の向上に繋がった。

●悩みや困りごとを話し合う時間、他園の手作り玩具の作り方や遊び方を聞く時間がもう少し欲しかったという声が多く、2時間の時間配分に工夫が必要である。

◇次年度も年齢ごとに実施したい。

□ファシリテーター研修会Ⅰ(7/14)

R4 ファシリテーター研修会Ⅱを受講した職員対象 22名参加

内容 ミニ公開保育（城南保育園分園）参観後、SOAPの視点に基づくKJ法の演習

講師 秋田県教育庁北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 岡部賢哉氏

＜アンケートより＞

- ・話しやすい場の雰囲気づくり、参加者の意見を引き出すための傾聴、問いかけ、サポート、意見をまとめて結論へつなげるためのスキルの必要性を実感しました。また、具体的なゴールを参加者と共有することが大事で、よりよいゴールに導くためには、ファシリテータ

一の「見通す力」が必要であることや、Oの育ちや学びの読み取りが不足している時は問いかけや切り返しをして導いていくこと、Aは資質・能力、研究の視点、ねらいのどれでグルーピングするのかを考えておくことで、願いや今後必要な経験が出しやすいこと等を学びました。

- ・ファシリテーターは研究を進めるリーダーであるが、「自分だけが」と気負わず、時には指名して先生達の思いを引き出したり質問を返したりして、研究を深めるようにするのが大切であると感じました。また、今回の研修で学んだことを他の先生たちにも伝え、自分だけがファシリテートするのではなく、園全体で研究に取り組めるようにしていきたいと思いました。

○前年度に研修会Ⅱで基本を学び、その後自園で実践を積んできている参加者なので、協議の進め方、記録の仕方、話し合う態度等に質の高さを感じた。各園の特色も出て、参加者からも自園の参考になったという声が多かった。

○ミニ公開保育と合わせて研修会を実施したことは、全年齢の保育と環境も見ることができたとし、協議もしやすかったと好評だった。また、会場が一つだったことも好評だった。

□実技研修会 (8/29)

新規採用者から5年経験した保育士、保育教諭、保育補助者対象 18名参加

内容 絵本・手遊び・ふれあい遊びの紹介（演習・情報交換）

講師 大館市公立保育園 主任保育士

<アンケートより>

- ・明日からすぐに取り入れられるような実践的な内容だったのでとても勉強になりました。また、主任の先生方から、様々なアドバイス・助言をいただけて学ぶことができました。
- ・手遊びは同じ年齢だけでなく、他の年齢（他のグループ）のも知れたら、次年度や合同保育の時に役に立つと思いました。

○昨年度も好評であり引き続き開催した。学んだことを自分なりに保育に取り入れていこうとする感想が多かった。

◇運動や外遊びの研修を要望する感想、他の年齢の内容も知りたいという感想等が複数あり、次年度の参考にしたい。

□5歳児担任研修会(11/16) 主任・年長児担当対象 44名参加

内容 保育要録の記入について

講師 北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 岡部賢哉氏

<アンケートより>

- ・日々の保育や職員同士、保護者との関係でもリフレーミングを活用していきたい。子どもはもちろん、相手のよいところに注目して理解できるように努めていきたい。
- ・要録は、スムーズに就学につなげるためだけではなく、保育者の子どもへの関わりや環境の構成などの指導の過程を振り返り、適切であったかどうかを評価し、よりよい指導を生み出す手がかりを求めることなのだと再確認しました。

◇市として要録について全体で研修するのは今年度で終わりとするが、次年度からは各園で研修し理解を深めていってほしいと各施設に伝えている。

□ファシリテーター研修会Ⅱ(12/7) 園内研究をリードする中堅職員対象 20名参加

内容 研究協議の実践

講師 北教育事務所 指導主事 庄司伸子氏 指導主事 岡部賢哉氏

＜アンケートより＞

- ・他の園の先生がたと演習することにより、自園と異なる進め方を知ることができ、とても参考になった。取り入れていきたいと思った。
- ・願い（A）を育ち（O）や視点から導き出していくところが難しいと感じた。繰り返し経験を積まないと思身に付かないと思うので、自園の先生方に協力してもらい経験を積んでいきたい。
- ・ファシリテーターとして進めていく上での進め方や話し方の流れの説明がもう少しあれば、戸惑った時に幾分分かりやすかったのかなと思いました。

○グループのメンバー全員がファシリテーターとして協議を進める演習方法は、自分とは異なる進め方や記録の仕方を学ぶことができて良かったという声が多数あった。

○この研修会を通して協議の重要性や普段の保育の中での語り合いの必要性に気付いたという声も多数あった。

△演習中に分からなくなったり迷ったりすることがあったので困ったという参加者もいたので、研修の内容や演習の流れについて、指導主事と検討していきたい。

◇ファシリテーター研修会は、コロナ感染症の影響で、ここ2年は基礎編と応用編が年度越し開催になっていたが、次年度からは年度内に基礎編・応用編を終えるようにしたい。

□子どもの虐待防止研修会(1/24)実施予定 園長・主任・保育士等対象（36名参加予定）

内容「子どものSOSが聞こえますか」

講師 大館市子ども課児童相談係 社会福祉士 松田さとみ氏

② 基幹保育園ミニ公開保育の開催

大館市就学前教育・保育施設職員を対象に公立・指定管理園・乳児保育園10園の保育を公開することにより、自園の保育の質の向上につなげることをねらいとして実施した。事前に各園の研究テーマとサブテーマを情報提供し、参加者も自園の研究に生かせるようにした。

□釈迦内保育園（7/4） 小学校校長・教頭・1年担任、就学前教育・保育職員、計28名参加

＜アンケートより＞

- ・各学年に水場があり、各学年が自分たちの遊び場に台車で玩具を運ぶことができるなど、一人一人が十分に遊びこめる環境が整えられていました。
- ・年齢を経て用具の使い方が上手になっていく様子が遊びを見ていて楽しかったです。年齢各々が常識的な使い方だけでなく自分なりの発想や予想で用途を広げていく様子が素敵でした。
- ・遊びがどこのコーナーも自然発生していた。そのような環境の工夫や仕向け過ぎない保育士等の関わりがとても勉強になりました。

□城南保育園分園（7/14） 保護者会代表、就学前教育・保育職員27名参加

＜アンケートより＞

- ・多くの種類の草花を植え自由に使える環境がつけられていると感心しました。自分たちで遊びに使っているうちに、どろどろになる草、においのする葉などの気付きにつながっていくと思いました。
- ・各年齢に合わせた環境づくりがよかったです。未満児はコーナーに分かれていて、自分のやりたいことをじっくりできるように配慮されていました。以上児も、子どもたちの声から、釣りごっこやお化け屋敷と子どもの製作がたくさんあり、楽しい、温かい雰囲気を感じました。

□城南保育園（8/4） 小学校職員、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 25名参加

<アンケートより>

- ・子どものやりたいことが実現できるように玩具や泡・花などの自然の素材が十分に用意され、思いっきり遊ぶことができる環境だったので、どのクラスもやりたい遊びをじっくりと満足するまで楽しんでいました。
- ・先生たちが子どもの思いを一つ一つ丁寧に受け止め応えることで、遊びが次々と発展して楽しい遊びになっていたと思います。

□西館保育園(9/26) 就学前教育・保育職員 18名参加

<アンケートより>

- ・クラスの枠がなく自由に自然に異年齢の交流が行われ、それを通して年下の友達へのやさしさが育っていると感じる場面がたくさんありました。
- ・5歳児の遊びの中では、イメージを形にできるように子どもと話し合いながら遊びを進める様子があり、「どうやってつくる?」「どうしたい?」の言葉は大切だと感じました。

□扇田保育園(9/29) 小学校職員、関係者評価委員、就学前教育・保育職員 21名参加

<アンケートより>

- ・2つ3つとあるごっこ遊びが混じり合っても遊びが続けられる保育士等の橋渡し。そのことから、子どもたちも「〇〇していいよ。」と認め合う、譲り合う場面が見られました。保育士の関わり大切さを再認識しました。
- ・室内で遊ぶことの多い材料(ヒモ、毛糸、ストロー等々)を外でも使う発想に驚きました。

□たしろ保育園(10/11) 小学校職員、就学前教育・保育職員 20名参加

<アンケートより>

- ・広々とした空間で、一度に製作、野球ごっこ等のたくさんの遊びができることがとてもよい環境だと思いました。室内で遊びたい子どもも、戸外での様子を見ながら一緒に空間で遊んでいるのを感じられる環境作りが素晴らしいと思いました。
- ・恵まれた自然がいっぱいな環境で、子どもたちがのびのびと遊び、保育士等も子どもたちの遊びたい思いを汲み取りながら関わっている様子が素敵でした。

□東館保育園(10/19) 就学前教育・保育職員 18名参加

<アンケートより>

- ・文字や数字が遊びの中で自然に使われ、その良さに気付いて活用している姿が素晴らしい。
- ・移動販売をして、いろいろなクラスの子と関りをもって遊んでいる姿が良かった。4、5歳児のアイディアが2、3歳児にも伝わり、園の文化になっていくとよいと思います。
- ・4、5歳児のクラスは、遊びの過程や作り方の掲示もあって、子どもたちが遊びの途中で見て遊びを進めていて、とてもいい工夫だと思いました。

□有浦保育園(10/26) 小学校職員、就学前教育・保育職員、町内会長、
県幼保推進課指導主事・アドバイザー等 29名参加

<アンケートより>

- ・キャンプごっこのテントや寝袋など大人もわくわくできる環境で参考になりました。テーマの通り「わくわくするための環境の構成・・・」ですね。
- ・未満児クラスには手作り玩具がたくさんあり、温かさを感じる中で年齢に応じた遊びを楽しめるようになっていて、参考にさせていただきたいと思いました。
- ・縄跳びのとんだ回数を書けるようになっていて、自分なりに目標をもったりうれしい悔しい気持ちを感じたりしながら、何度も挑戦する年長さんの姿、素晴らしかったです。

□大館乳児保育園(10/31) 就学前教育・保育職員 16名参加

＜アンケートより＞

- ・0歳児1歳児ではなく月齢に合ったクラス分け方で、遊びが一人一人のびのびとできていると思いました。
- ・絵本コーナーとままごとコーナーを離れているので、ままごとコーナーでにぎやかに調理を、絵本コーナーでゆっくりと本を読むことができると思いました。コーナー分けがとてもうまいと思いました。
- ・ピーマンやパプリカ、柿、マリーゴールド等自然物にあふれていて、採る数も制限せずふんだんに使えていて良いと思いました。

□十二所保育園（12/7）

就学前教育・保育職員、県幼保推進課指導主事・アドバイザー等
26名参加

＜アンケートより＞

- ・「次どうする？」「これは!!」「よし、あとこれでできるじゃん!」「あと切るだけで完成!」など、年長の子どもたちの発した言葉から、作る・作ってできあがっていく過程を存分に楽しんでいると感じました。また、作ると決めたものを作るスピード感にも驚きました。このような活動を繰り返し経験してきたことからくる自信なのかなと思いました。
- ・時に遊びに入り、時に見守り、子ども主体の保育を支えながら一緒に楽しんでいる先生の姿がよかった。また、先生方は「今日はどんな遊びになるのかな?」という楽しむ気持ちで関わったり準備したりしているのが伝わり、素敵だと思いました。



ミニ公開保育の様子

○ミニ公開保育を参観することで、自分の保育の方向性を考えたり環境の構成の参考にしたりしようとする前向きな声が多かった。また、公開園も参加者の感想が保育改善の参考になったり、励みになったりした。

◇今年度は10園（昨年までは9園）がミニ公開保育を実施したが、今後、認定こども園にも拡充していきたい。

◇ミニ公開保育への参加者は保育の参観だけであるが、後は参観後の協議にも参加できるように検討したい。

③ 基幹保育園（5園）主催の研修会：オーダーメイド研修会

- ・公立園長会で研修内容が重ならないように調整し、多様な研修を受講できるようにしている。

実施園	実施日	内 容	講 師	参加者
大館感恩講	6/28	「保育の質の向上」 （講話及び演習）	西館保育園 園長 佐藤和博 氏	22名
	11/22	「不適切な保育に陥らないために」		22名
有浦保育園	8/23	「心が楽になりたい ですか」	ファミリーネットワ ーク代表 緑の牧場	

		(折れない心の育て方)	牧師 村岡 昇 氏	25 名
たしろ保育園	9/14	「もしものための救急講座」	大館消防署田代分署 富樫 氏・長内 氏	27 名
城南保育園分園	10/25	大館市の防災 「災害図上訓練 IDF」	大館市危機管理課	24 名
城南保育園	9/ 4	「心軽やかに 笑顔の花を咲かせよう」	心を育むここはぐ 代表 伊藤孝子 氏	29 名
扇田保育園	2/15 実施予定	キッズ食育講座	大館市健康課 長谷部 朋子 氏	

(4) 「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

① 就学前教育施設と小学校との円滑な接続のための支援

□小学校の授業参観と協議・保育参観と協議・保育者体験

たくさんの小学校で園の先生方による1年生の授業参観が実施されている。1学期の早い段階で、授業参観と情報交換、交流の打合せをしている。また、PTA授業参観日やみんなの登校日に保育園の先生を招待する学校もある。保育園では、要請訪問や関係者評価、園行事に小学校の職員を招待している園が多い。また、夏休みを利用して、小学校教諭が保育者体験をする研修や、小学校が保育士等と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にした研究協議も増えている。



就学前教育・保育施設と小学校職員との研究協議の様子

○架け橋カリキュラム作成合同会議では、学区の共通課題や目指す子どもの姿が明らかになり、じっくり語り合うことで、先生方が気楽に語り合える関係づくりにもつながった。

◇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の研修は必須であり、参観によって同じ子どもの姿から、成果と課題を協議する必要がある。

□幼保小連携だより「つなぐ」の定期発行（月1回）

- ・大館市の全就学前教育・保育施設（31施設）のほか、全小学校、北教育事務所、他市の保育アドバイザーに配布。
- ・わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業について、就学前教育・保育と小学校の教育の連携のための情報提供、研修や交流の実施状況、感想等を掲載している。
- ・保育と教育双方の理解を深めるための特集として交流の実践例、合同協議の内容・様子などを掲載している。
- ・架け橋期のカリキュラム作成に向けての各学区の動きや取組を紹介している。

○園と小学校との交流、小学校職員の保育参観・体験、研究協議への参加、幼保小連携便りの情報提供等により、相互理解が深まってきている。交流の内容が見直され、気軽に継続してできる交流、互惠性のある交流が増えてきている。

○架け橋充実期のカリキュラム作成に関する情報提供、取組の手順、進捗状況等をこまめに知らせることによって、先生方の共通理解の手助けとなり不安や疑問などの解消に繋がっている。

② 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の実施

□幼保小連携推進会議 (5/17) 園長・主任、教頭等対象 47名参加

内容 「幼保小の架け橋プログラムの大館市の取り組み状況について」

大館市教育委員会 副主幹 山本 多鶴子氏

「架け橋期のカリキュラム作成の年間予定・交流計画」についての協議

(学区ごと)

○どの学区も熱心な協議が行われ、連携の充実を目指す意気込みが感じられた。

○交流計画をさらに充実させる学校区が増えている。

□幼保小担任合同研修会 (6/1) 年長児・小1担任等対象 41名参加

内容 「これからの幼児教育と小学校教育の在り方について」

講師 國學院大學 教授 田村 学氏

「幼保小の架け橋プログラムの大館市の取組状況について」

大館市教育委員会 副主幹 山本 多鶴子氏

<アンケートより>

- ・子どもの主体的にやってみようという気持ちがよりよい学びにつながることで、保育者の指導力、見取り力が大切になることが分かりました。普段の保育での活動や遊びをイメージし、子どもの学びにつながる遊びが何かを見直したいです。
- ・教科書にあるからとか、1年生は毎年これをやるからとか、いつも教師主導であることを反省しました。意欲や心が動く活動であるように脳が活性化するなら、我々は責任をもって体験活動の在り方や価値を見直す必要があると思いました。

○オンライン受講も設定することで、担任だけではなく、小学校長の参加が増え、連携やカリキュラム作成への理解につながった。

○他市町村、他県からの参加があり、本市の取組を発表する機会になった。

□大館市教職員夏季研修会 (8/2) 大館市教職員・就学前施設職員等対象

「保護者に寄り添った支援～信頼を築くポイント」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝氏

参加者 122名

<アンケートより>

- ・保護者の面談について、「保護者の視点」から、そのあり方を考え直す機会を与えてもらいました。どちらかというと学校の困りごとを一方向的に伝え、それをどうするかという面談が多く、保護者の気持ちを置き去りにしていたことに気付かされました。
- ・たくさんのご経験をもとにしたお話が、本当に勉強になりました。すぐに実践に生かせる講演内容には、共感と納得しかありませんでした。しかも、演習しながら実感を伴って学ぶことができました。今日の学びを保護者面談で必ず生かします！

「幼児期～小学校低学年の言葉に発達について」

NP0 法人 LD/Dislexia センター 理事長 宇野 彰氏

参加者 132名

<アンケートより>

- ・就学前の読み書き習得では、練習より、能力ということが納得できました。全く触れずに小学校へ入学するよりも、環境として目に触れる、関心を寄せる程度で刺激していき、触れる経験はしてもよいように感じました。
- ・個人によって違うことは通常学級でも感じています。一斉指導が難しい子どもたちの実態を知って、的確な合理的配慮ができる余裕があればと思います。特学を担当すると個

別に対応できることが多いが、通常学級はとても大変だと思います。

○就学前施設職員と小学校教諭が「文字」や「言葉」について同じ講話を聞くことで同じ認識をもつことができた。グループ協議によって、校種が違っても保護者支援では同様の悩みをもっていることが分かり、共感し合えた。

●読み書き障害に限定した内容だけではなく、年長から1年生にかけての「読み」「書き」への関心の高まりや習得についての内容だったが、就学前施設職員の参加が例年より少なかった。

◇研修内容については、受講者のニーズ（アンケート）をもとに、来年度の内容、講師を選定し、より多くの参加を促したい。

□大館市教職員研究実践発表会（1/9） 大館市教職員・就学前施設職員等対象

「生涯の学びを支える「幼保小の架け橋プログラム」

～その成果と手応え（中間報告から）～

大館市教育委員会教育研究所 副主幹 山本 多鶴子氏

架け橋コーディネーター

大丸 ふさ子氏

参加者 64 名

<アンケートより>

- ・現在、架け橋プログラムの作成をしていて、来年度からの実施に不安を感じていましたが、モデル地区の子どもたちの姿を見て、子どもたちと話し合いながら様々な経験を楽しめるようにしていきたいという思いが強くなりました。
- ・就学前の経験のため込み時期に経験不足が補えるよう、全ての児童に多様な経験ができるよう各保育園・子ども園・小学校が連携をとり、架け橋カリキュラムを作成し、保育の月案・週案等に盛り込んでいくことができるようしっかりと生かしていきたい。

「わくわく やりたい 心動くぼくたちの遊び」

～友達との関わりの中で やりたいことに

向かっていく心の育ちを支える保育を目指して～

大館市沼館保育所 主任保育士 奈良 佳名子氏

前2・3歳児担任 藤嶋 美希氏

参加者 39 名

<アンケートより>

- ・子どもの姿からその行動の価値や成長を細やかに見取っていて驚いた。また、そこから次の保育のねらいを考えていて、常に子どもを中心にして保育をされていることが分かった。1年生担任として、保育園までに子どもたちがどんな力を付けているのか改めて確認したいと思った。
- ・カンファレンスの中で、効果的だった援助と今後の課題を具体的にすることで、継続していくこと、改善していくことが分かりやすくなり、先を見通した保育につながっていくように感じた。混合クラスだから見える子どもの育ちや変容にも注目していて、今後、異年齢児の関わりの深まりになっていくように思う。

「メディアコントロールは 子どものミライ（未来）コントロール」

大館市立有浦小学校 養護教諭 山本 幸子氏

大館市立有浦保育園 主任保育士 北林 富士子氏

大館カトリックこども園 主幹保育教諭 柴田 綾子氏

年長児担任 齊藤 優菜氏

参加者 62 名

＜アンケートより＞

- ・ 中学校で勤務していますが、中学校でもメディアコントロールは非常に問題となっており、今回の講話の中で幼保の現状を知ることができてよかったと思いました。幼保小で培ってきたルールや取組を生かし、中学校でも段階的に継続して指導していかなければならないと改めて実感しました。
- ・ 幼児期からのメディアコントロールの必要性をととても感じた。幼保小の連携がなせる取組でした。小学校から始めたのでは遅いので、是非参考にして実践化していきたい。

- 各発表を通して幼保小連携の必要性や有効性が多方向から示された。幼保小関係者のみならず、中学校教諭や養護教諭、大学生の参加もあり、広く成果を発信することができた。
- △1年生担任はじめ小学校教諭の参加が少なく、さらに関心を高めたい。担任は毎年替わることから、幼保小の連携の内容は毎年続けていく必要がある。
- ◇モデル地区では実践を通して、学びの深まり、子どもの変容をはじめ様々な成果が得られていることから、それを教育関係者のみならず地域や家庭にも発信する機会を設けたい。

（５）「県との連携体制の充実」

□県主催協議会・研修会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加

- ・ 園長等運営管理協議会（4/26, 8/25）・就学前・小学校等地区別合同研修会（5/17, 6/1）
- ・ 園内研究リーダー養成講座ⅠⅡ（6/30, 10/1）・教頭・主任等研修会（5/24, 11/2）
- ・ 教育・保育AD連絡協議会（4/24, 6/23, 8/24, 10/24, 1/23）
- ・ 県就学前教育推進協議会（11/21）・県アドバイザーによる支援訪問（10/26, 11/7）

○アドバイザー研修では、他市の事業内容や進め方、アドバイザーとしての関わり方、保育の見方など学び、本市の事業に生かすことができた。

□秋田県教育庁幼保推進課との連携体制と役割分担の明確化

- ・ 県幼保推進課・北教育事務所の要請訪問への同行(19 施設)
- ・ 北教育事務所指導主事等との打ち会の開催（年2回）

〈具体的な連携〉

- ・ 北教育事務所指導主事による市の事業や研修への支援・協力
- ・ 市アドバイザーが依頼文書、研究内容、指導案の見直し後、各園で訂正し、その後、北教育事務所へ送付。それを受けて、北教育事務所から各園に日程・内容の確認。
- ・ 同行訪問では、子どもの姿や保育者の関わり、環境の構成等で気付いたことを指導主事と情報交換し共有する。

○県による教育・保育アドバイザー等の研修会参加や県教育庁北教育事務所要請訪問同行により、アドバイザーとしてのスキルアップにつながり園訪問での助言に生かすことができた。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和5年度)の成果と課題

○これまでも職員間・子ども同士の交流は行われていたが、「幼保小架け橋プログラム事業」のカリキュラム作成をきっかけに、就学前教育・保育施設と小学校の職員と一緒に研究協議や話し合いをもつ機会が多くなり、互いの教育・保育の理解や子ども理解を共有化することができてきた。つながりがより深まった。また、教育研究所・子ども課からの発信だけではなく、幼保小の先生方からの問い合わせや勉強会の要請等も増えている。

○新たに2つの認定こども園を訪問し、保育参観と協議に参加することができた。大館市主催の研修会にも初めて参加した認定こども園もあった。「幼保小架け橋プログラム事業」のカリキュラム作成を大館市全体で取り組んでいることがきっかけとなったと思われる。これから続けていくことで、大館市の教育・保育の一貫性に繋がっていくのではないかと考えている。

◇研修会への職員参加が各園の負担にならないように研修会内容を精査していく。

